

まき

牧地区

(新潟県上越市(牧地区))

- 計画期間 平成16年度～平成19年度
- 面積 130ha
- 交付対象事業費 293百万円
- 市人口 185,892人

ポイント かがやく自然の中で共に暮らし、自由に生きる「詩情あふれる安らぎの里」づくり

地区概要 豊かな自然と安全な水・食料の生産できる牧地区において若者が定住できる環境整備を実施し、地区中心部の賑わいの創出を図る。

目標 豊かな田園環境の中でゆったりと子育てできるまちづくり

指標

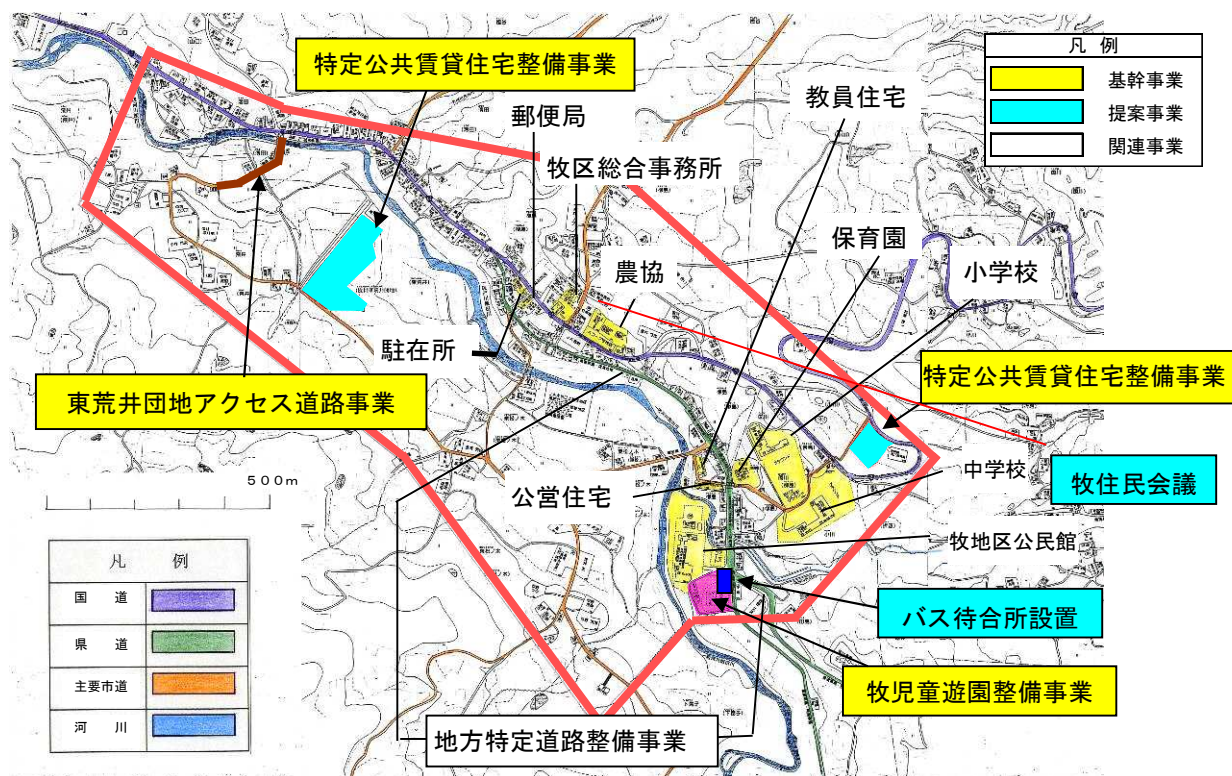
若者向け住宅と公園を整備することにより若年UIターン者の増加を図り中心地区の活性化を目標とした。

項目	現況値 (16年)	→	確定値 (20年)
乳幼児児童数の減少率の抑制	△21%	→	△15.4%
中心地区の世帯数の抑制	△0.5%	→	4.5%
中心地区の若年UIターン者数の増加率	100%	→	147%
公民館利用者数の増加率	100%	→	186%

事業内容

基幹事業 (291 百万円) → 住宅8戸 (集合住宅4戸、個別住宅4戸)、公園 (1箇所 A=6,000 m²)
道路 (幅員 7.0m延長 180m、橋梁 1基)

提案事業 (2.1 百万円) → 牧住民会議、バス待合所設置



地区の現況と課題

牧区では、若者ニーズにあった住宅の整備により若者定着に一定の成果をあげてきたが、現状の整備戸数では不足している。

中心地区は牧区の核に位置づけられているが、牧区全体を活性化していくには中心地区の賑わいがどうしても必要であり、そのため課題である拠点施設整備が必要である。

提案事業の特徴

牧区には地域ごとに地域づくり団体があり、中には「どぶろく特区」の指定を受け都市交流事業を積極的に展開している。

牧住民会議では行政と住民の役割について見直し、地域コミュニティやボランティア団体などの多様な担い手や公的な分野への参画について推進を図り、地域づくり団体をはじめとした関係団体の住民参加の窓口から情報発信基地の役割まで幅広い役割を担っている。

計画策定プロセス

牧区では、都市再生整備計画策定前から「豊かな田園環境の中でゆったりと子育てできるまちづくり」を進め、若者の流出に歯止めをかける対策に取り組んできた。

「安心して子育てができる地域」、「定住を積極的に受け入れる地域」などの若者からの要望に即して、牧区の中心地区に若者のニーズにあった住宅を整備し、若者の定着に一定の成果を挙げた。

しかし、近年、基幹産業である農業が極めて厳しい状況下におかれ、農業離れ、若者の流出、そして著しい少子高齢化と過疎化が進行する社会環境となったため、まちづくりの更なる取り組みとして、住宅の整備や通勤道路の改善、公園などを充実させ、若年層の流出抑制と若年 U・I ターン者の受入を促進し、交流拠点施設の整備による中心地区の賑わいを創出することによって、牧区全体の活性化を図ることを目的に都市再生整備計画を策定した。



集合住宅（完成）



狭隘なアクセス道路（改良前）



整備されたアクセス道路（改良後）